

般ノ馬城ト見エタリ、

〔和漢三才圖會六十九〕逸見御牧 在巨勢郡、穗坂小笠原等皆有牧出駒、

〔甲斐國志古蹟四十七〕北巨摩郡逸見筋

一小笠原長清館蹟小笠原村

厚芝組

按ニ小笠原牧ハ古歌ニ詠ズレドモ、延喜式、拾芥抄等、及歴代國史ニハ穗坂、真衣野、柏前、三牧ノ外所見ナシ、東鑑承元五年五月十九日、小笠原御牧牧士與奉行人三浦平六兵衛尉義村代官有喧嘩事、今日被經沙汰、○中早可改義村奉行之由被仰出、被仰佐原太郎兵衛尉云云トアリ、古ハ小笠原北上手村小笠原ノ上方淺尾神取、皆引續キタル原野ナリシ由、今茅ヶ岳ノ麓入合場ニ馬城ノ遺形存セリ、茅ヶ岳、金岳、江草山等ニ所牧ハ、本穗坂同產ノ馬ナレバ、御取籠ノアリシ場所ニ因リテ其名ヲ稱シ、庄名ニ取リテ穗坂牧ト總稱セシナラン、○註美豆牧トハ穗坂小笠原逸見三所ヲ指シテ云ナルベシ、逸見牧ハ即柏前牧ナランコトハ既ニ其條ニ記セリ、又夫木集、註ニ、逸見牧或ハ伊豆トアルハ、彼州西浦戸田ノ山ニ今モ散馬アリ、古ハ牧場ナリシト云リ、昔近キ故ニ混ジ誤レルナラン、彼ハヘダナリ、ヘミニハ非ズ、

〔政事要略二十三年中行事〕廿五日〇八武藏勅旨牧并立野御馬事是日分取御馬、先取由比石川等牧御馬畢、更次取立野馬、小月

右官字五十後加立野廿元十五加五、

太政官符 武藏國司

應立野牧爲勅旨并以八月廿五日定入京期事

右右大臣宣奉勅件牧宜爲勅旨、即蔭孫藤原道行充其別當、每年令勞飼十五疋御馬、合期奉貢者、國宜承知、依宣行之、符到奉行、

左中辨藤原朝臣

左少史酒井勝